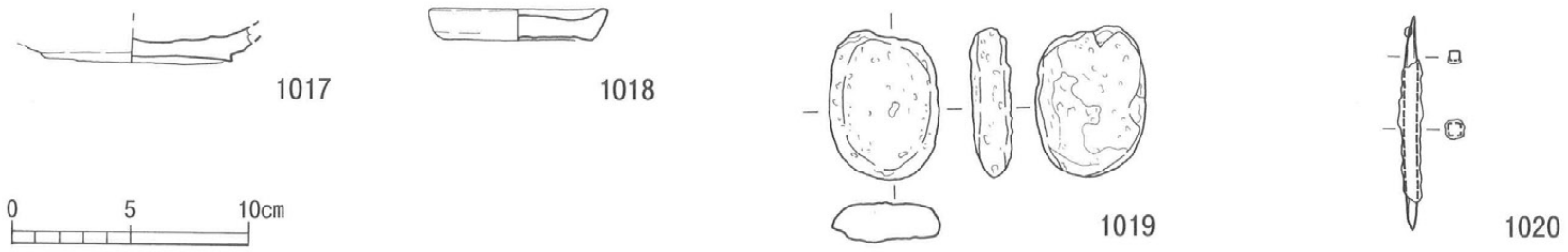
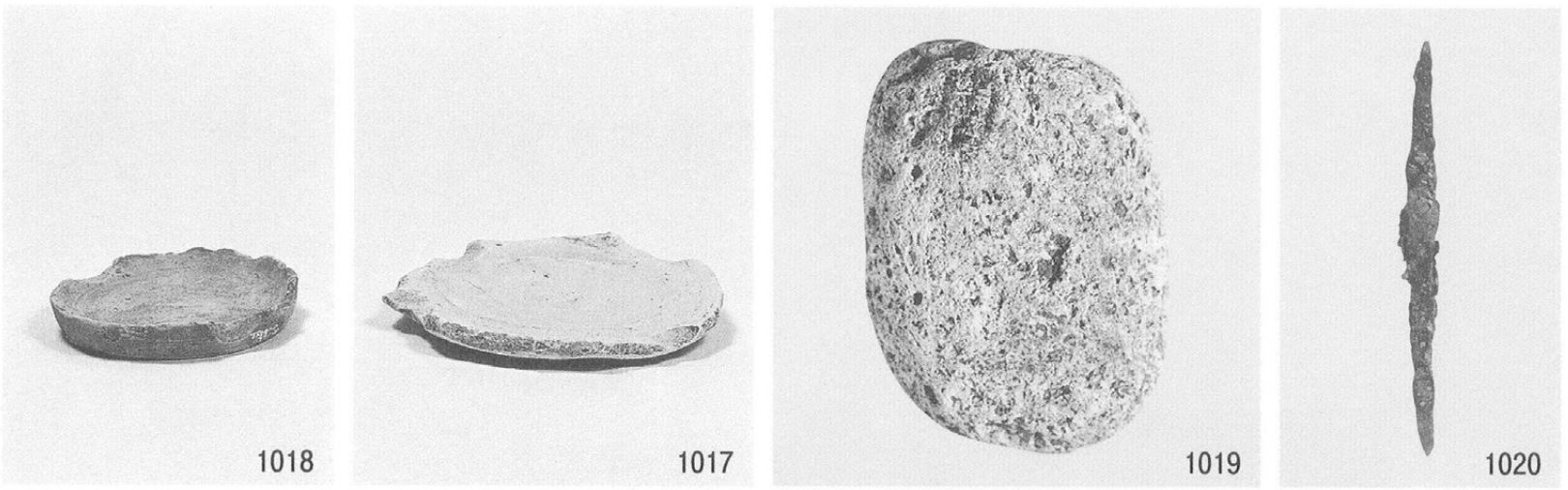


第122図　SY01 内出土遺物実測図　土師器・石製品・鉄製品

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
1017	土師器	坏	SY01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	－	7.9	－	回転糸切
1018	土師器	小皿	SY01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.4	1.3	回転糸切
1019	軽石製品	－	SY01	－	－	－	－	－	6.2	4.5	1.6	24.6g
1020	鉄製品	合釘	SY01	－	－	－	－	－	8.6	0.6	0.6	8.2g

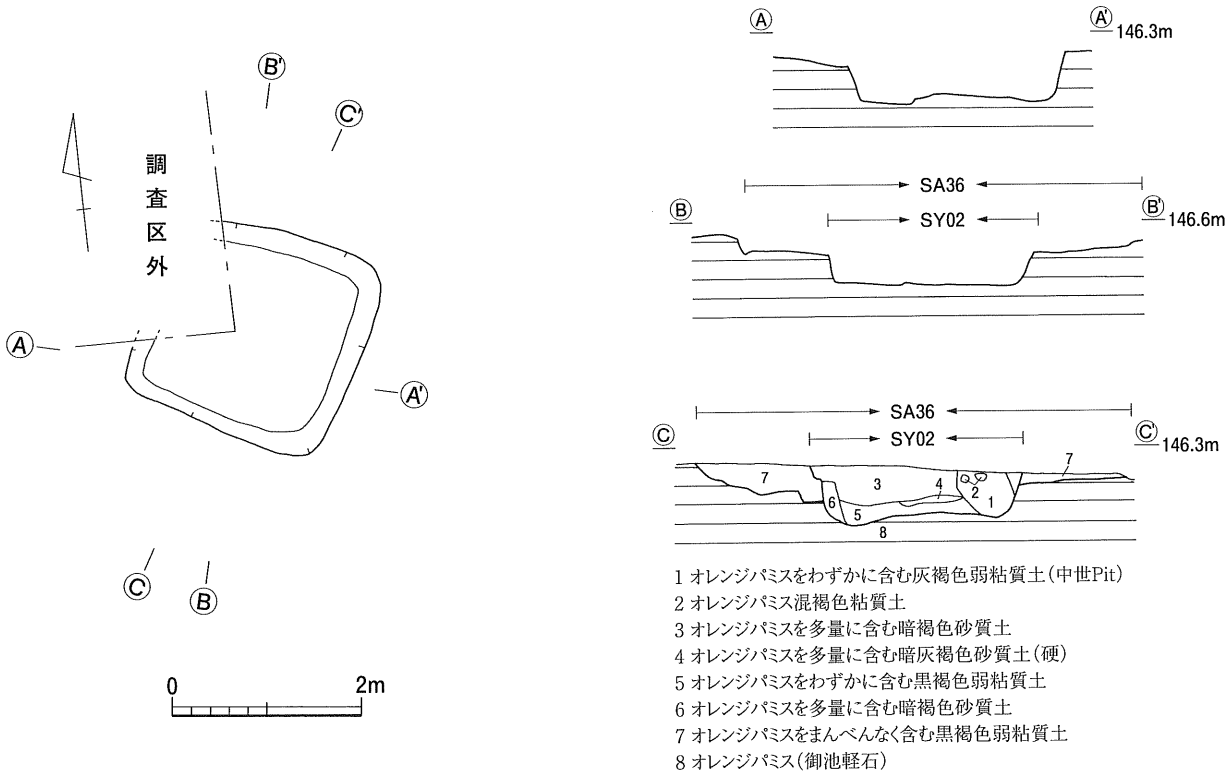
第70表　SY01 内出土遺物実測図　土師器・石製品・鉄製品



図版88　SY01 内出土遺物写真　土師器・石製品・鉄製品

E期、③はE～F期（G期もかかるか）に比定することができよう。先に別冊において報告したように（都城市教育委員会2004）、本遺跡では、7世紀初頭頃に集落が存在した。そして包含層内に遺存した遺物から、平安期あたりにも集落が営まれていた可能性がある。そして、12世紀代もわずかながらその痕跡を残して、13世紀中頃～後半に至って、SB03の出現を期に遺構A群が成立し①の盛行期を迎える。そして、②に至ってSB01を核とした建物群である遺構B群が成立する。この段階において、この総柱状の構造をもつSB01がある種寺院のような機能を果たしていた可能性が指摘できる。またその周辺には付随する建物群が構築され、集落のような状況を呈していたとも考えられる。そしてその周辺、谷間や低湿地帯には水田が開かれ、生産活動が開始されていたであろう。さらに③期に入って遺構C群が成立する。その後、この集落は著しく退行し、おそらくは14世紀末～15世紀前半代において水田化されていったものと考えられる。

佐久間高士は、中世の集落を分類し、用途や時期ごとに区分した（佐久間1994）。それに照らせば、本遺跡はD型の村落形態とみなすことができよう。佐久間はこのタイプをさらに区分している。D1型は「屋敷地の境が直線の溝で区画されているが、溝が全周せずに入口以外にも一部が開いており、比較的開放的な屋敷地で構成される集落」で、鎌倉期の集村形態としている。典型例としては、標高2mの低地の中の南北に走る微高地上に立地する13世紀中葉～14世紀中葉の愛知県清洲町土田遺跡、12世紀代～14世紀初頭の集落で、屋敷地を溝で区画した構造をもち、「この集落は13世紀代にすでにかなり大きな集村の形態を持っていた」と指摘する滋賀県野洲町西田井遺跡を挙げている。次にD2型は「多くの屋敷地が入口以外の四方を溝や堀で囲まれ、比較的閉鎖的な屋敷地で構成される集落」で、南北朝期型とみなす。「13世紀後半から14世紀前半にかけて、中



第123図　SY02 実測図

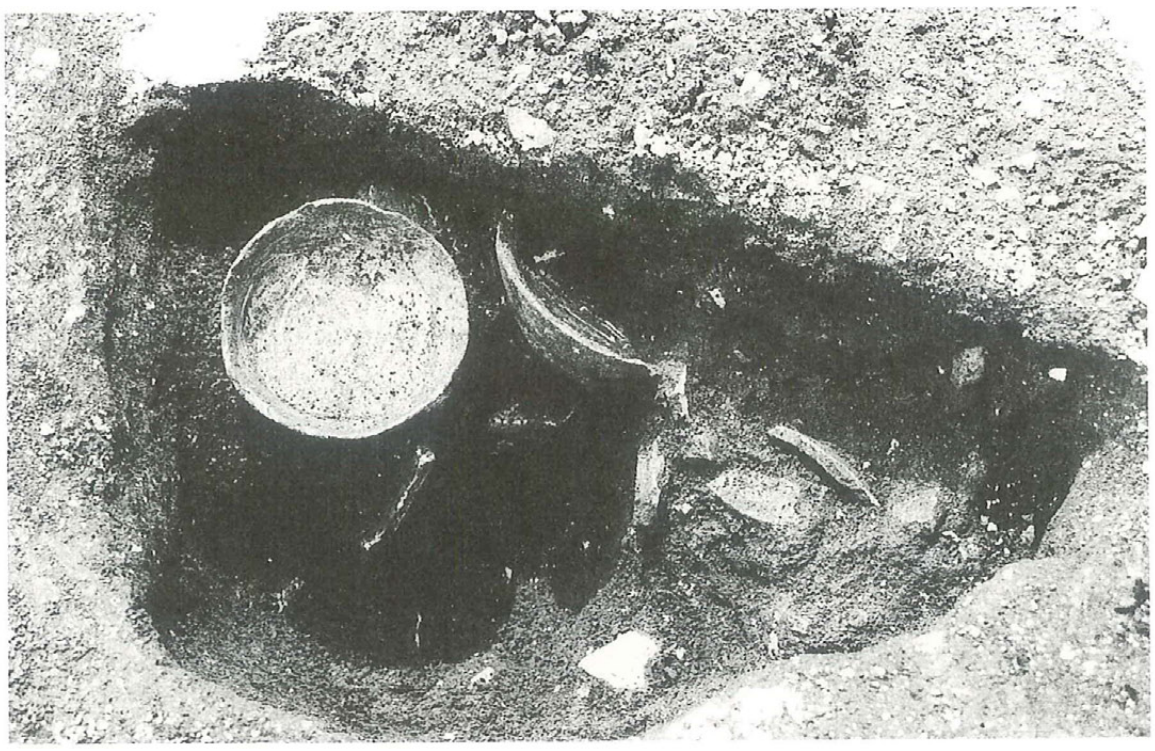
心部の屋敷地群が幅２ｍから４ｍ、深さ１ｍ前後の堀に囲まれたものとなり、一部は川に繋がる」滋賀県守山市横江遺跡を典型例としている。本遺跡の集落もこうした時期に対応する型をもつものと想定できる。

2　鶴喰遺跡の歴史的位置付け

当遺跡の北西部に新宮城が近接する。これは横市川北岸の台地崖際に築かれた小規模な館状城郭であるが、「台地上にもともと日常的に使用される屋敷地があり、北側に詰城である古城がある景観であったとみられる」(都城市2005) として、南北朝期に双方の衝突地点としてこの新宮城が登場してくることから、当遺跡とこの城との関連性も浮かび上がる。このことは「この横市地区では、平安末から室町時代にかけての居館跡が検出されており、この地区には有力な開発領主層が存在したとみられ、こうした階層の一部がこの新宮城に拠っていたとみられる」(都城市2005) と指摘されていることからもうかがえる。建武４年 (1337) ４月23日付建部(池端) 清種軍忠状には「為誅伐日向国凶徒伊東藤内左衛門尉祐広・肝付八郎兼重以下輩、去年十一月二十一日、馳参国富荘太田城、同廿二日、為対治兼重馳向、結城孫七郎行郷・友永七郎澄雄相共、同十二月六日、兼重与党等楯籠押寄下財部院新宮城致合戦、」とあるように (都城市2001)、南朝方であった下財部院新宮城を畠山直顕が攻撃している。新宮城とその一帯が「下財部院」のうちにあるという認識がここにみえるが、このことは『庄内地理志』巻69に「古来下財部と記候ハ、御当家数久公・忠相公御時、永正十六年千陀羅寺観音堂棟札に、日向別下財部郷旋陀羅寺之内、常楽寺霧島大権現本地と在、其後忠相公・忠親公御時、当地大根田天下天神棟札に、下財部之内と有、時久公御代、天正四年右同社棟札に、大隅国下財部之内雨下天神と有、又同御代、当地今房霧島棟札に、弘治三年日州下財部之内霧島権現勧請と在之、下財部之事千陀羅寺観音、今房霧島ハ日州と有、大根田雨下天神わ隅州と有、然ハ当地日隅に相掛候半、当時ハ御領分全ク日州横市也、」とあり (都城市2003)、中世段階において該地の境界が曖昧であったことを示しているとともに、横市一帯が「下財部」内に繰り込まれていることが確認できよう。また、対岸に位置する加治屋B遺跡では13～14世紀初頭の時

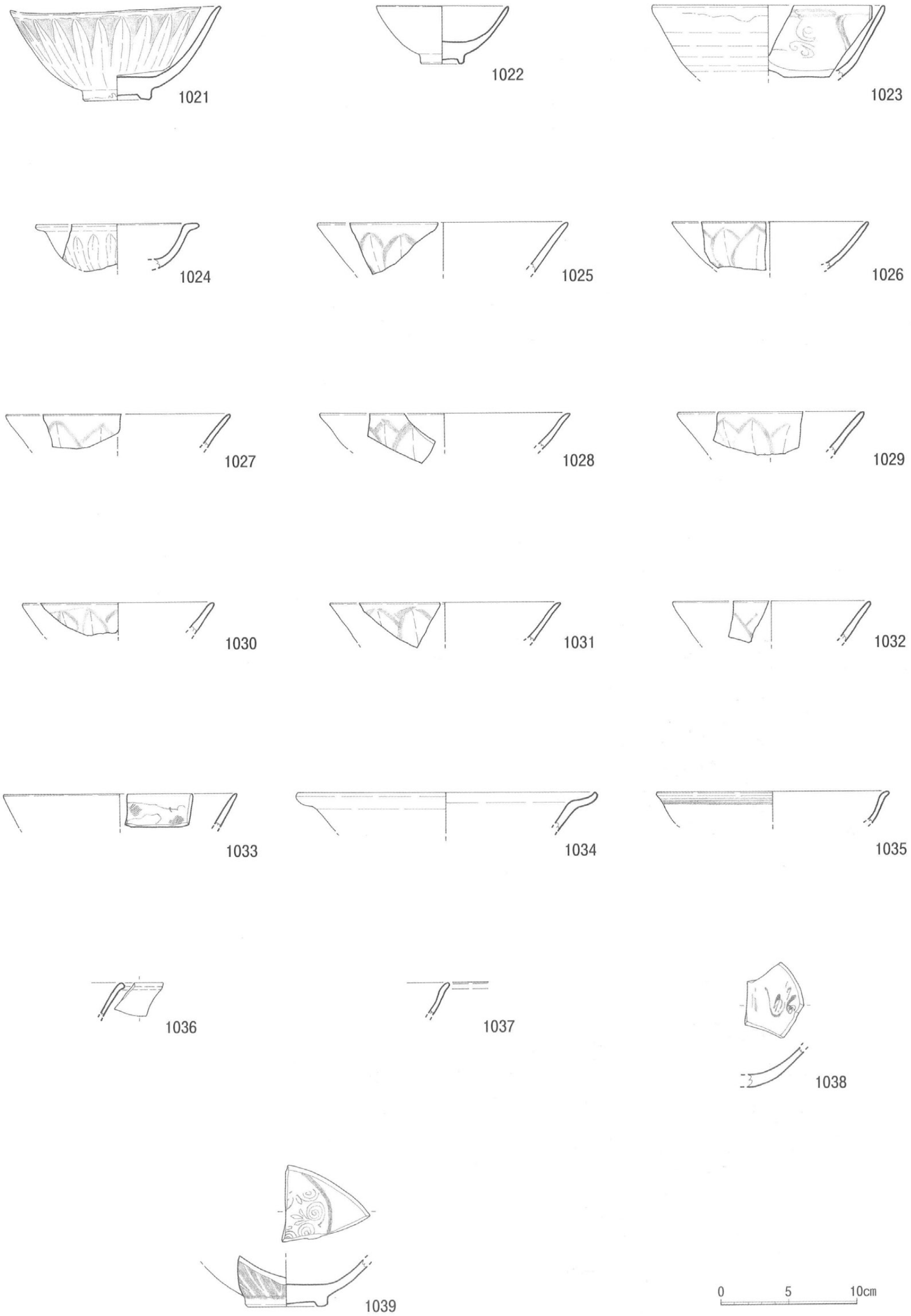
青磁蓮弁文碗
出土状況

土師器
出土状況

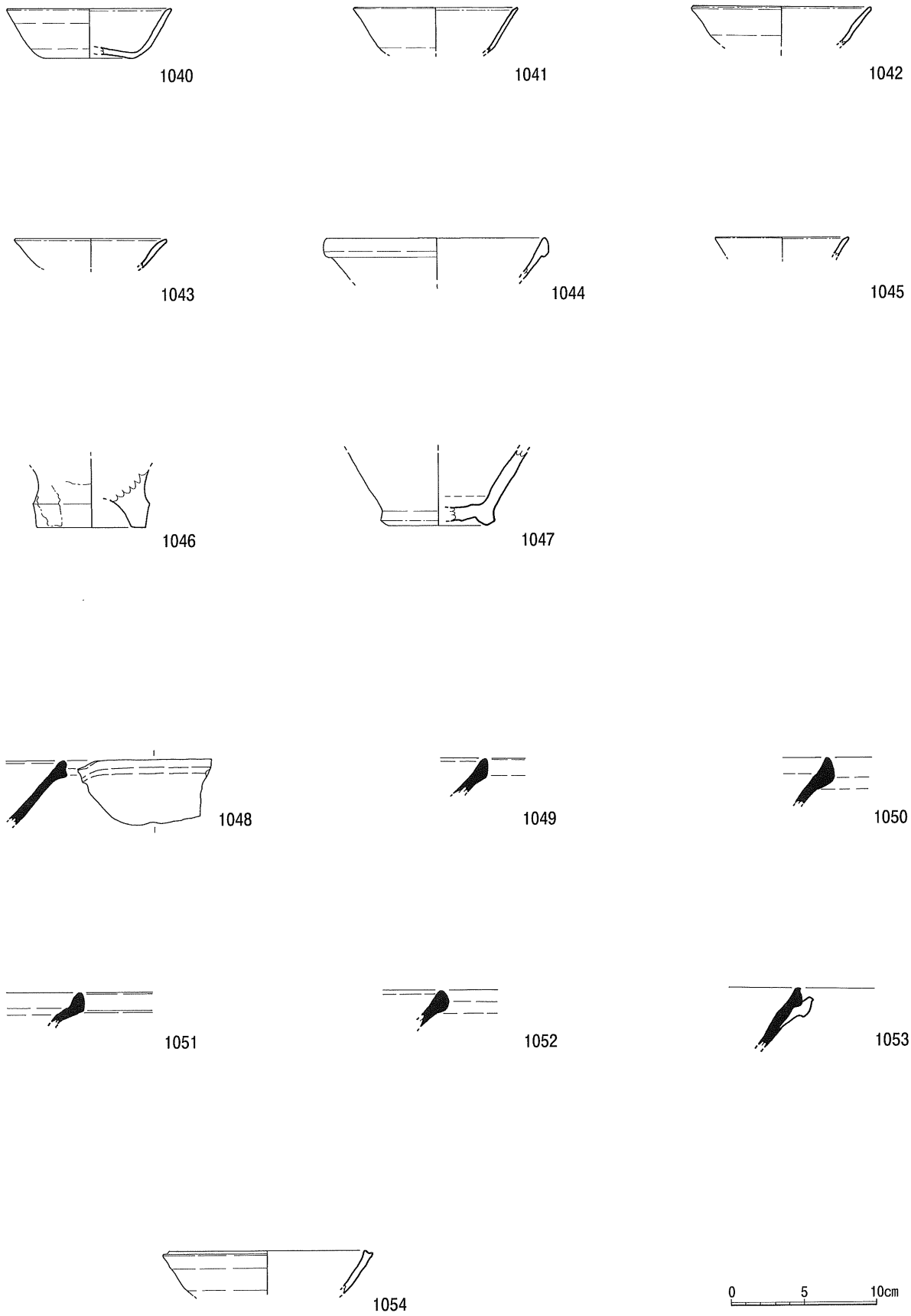


土師器
出土状況

図版89　Pit 写真



第124図　Pit 内出土遺物実測図　陶磁器(1)



第125図　Pit 内出土遺物実測図　陶磁器(2)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1021	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	15.6	5.0	6.8	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1022	青磁	小碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	9.8	3.2	4.2	(反転復元) 龍泉窯系小碗Ⅰ-4類
1023	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	17.1	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅰ-4a類
1024	青磁	坏	PIT	施釉	施釉	灰白色	12.0	−	−	(反転復元) 龍泉窯系坏Ⅲ-3 or 4 or Ⅳ類
1025	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	18.6	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1026	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	14.5	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1027	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	16.6	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1028	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	18.6	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1029	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	14.8	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1030	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	14.1	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1031	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	17.0	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1032	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	14.6	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1033	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	17.2	−	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅰ-2or3類
1034	青磁	盤	PIT	施釉	施釉	灰白色	22.2	−	−	(反転復元) 龍泉窯系盤Ⅲ類
1035	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	17.1	−	−	(反転復元) 同安窯系碗Ⅱ類
1036	青磁	坏	PIT	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ-1a類
1037	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	同安窯系碗Ⅱ or 龍泉窯系碗Ⅰ類
1038	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅰ-4類
1039	青磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	−	6.0	−	(反転復元) 龍泉窯系碗Ⅱ-c類
1040	白磁	皿	PIT	施釉	施釉	灰白色	11.4	6.2	3.4	(反転復元) 皿Ⅸ類
1041	白磁	皿	PIT	施釉	施釉	灰白色	11.4	−	−	(反転復元) 皿Ⅸ類
1042	白磁	皿	PIT	施釉	施釉	灰白色	12.4	−	−	(反転復元) 皿Ⅸ類
1043	白磁	皿	PIT	施釉	施釉	灰白色	10.6	−	−	(反転復元) 皿Ⅸ類
1044	白磁	碗	PIT	施釉	施釉	灰白色	15.0	−	−	(反転復元) 碗Ⅳ類
1045	白磁	皿	PIT	施釉	施釉	灰白色	9.2	−	−	(反転復元) 皿Ⅸ類
1046	白磁	四耳壺	PIT	施釉	回転ナデ	灰白色	−	7.4	−	(反転復元) 四耳壺Ⅲ-3類
1047	白磁	四耳壺	PIT	施釉	施釉	灰白色	−	8.0	−	(反転復元) 四耳壺Ⅲ-1類
1048	東播系須恵器	片口鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	捏鉢
1049	東播系須恵器	鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	
1050	東播系須恵器	鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	
1051	東播系須恵器	鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	
1052	東播系須恵器	鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	
1053	東播系須恵器	片口鉢	PIT	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	注口部
1054	古瀬戸	おろし皿	PIT	施釉	施釉	灰黄色	13.6	−	−	(反転復元) 前Ⅳ期以降

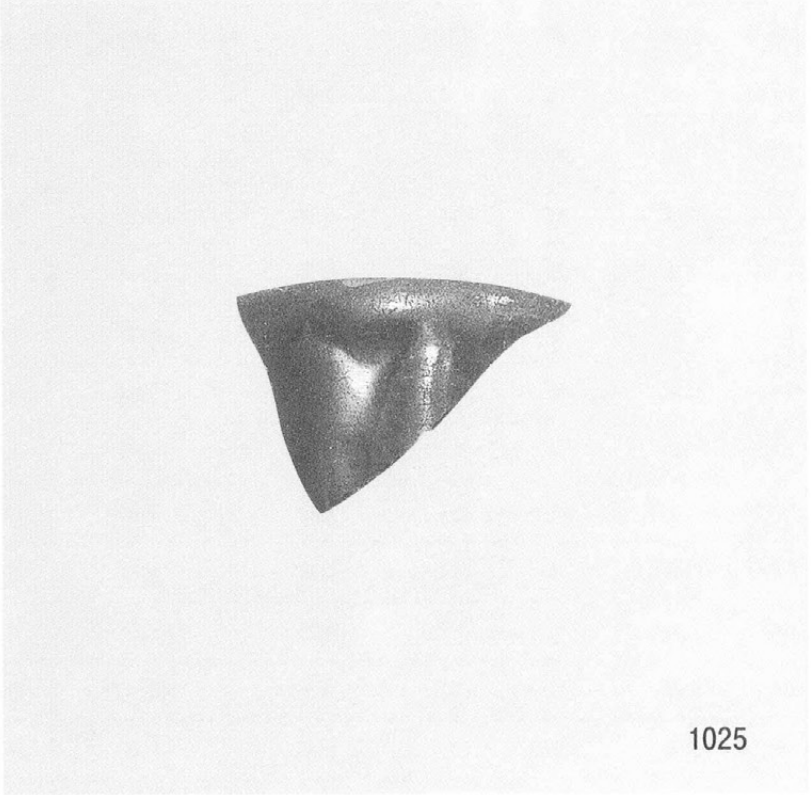
第71表　Pit 内出土遺物観察表　陶磁器

期に相当する、夥しい数の掘立柱建物が確認されており、ここに大規模居館跡が存在している可能性が指摘されている。こうしたことから、該地において有力な在地領主が存在し、その居館が本遺跡一帯もしくは加治屋Ｂ遺跡一帯に存在した可能性もある。また、そこには信仰施設が置かれ、町場が存在した可能性もみえよう。こうしてみてくると、高橋修が提起した「町場」の主要構成要素を多分に含んでおり、14世紀初頭頃の都城盆地西部の様相の一端を垣間見ることが可能となろう。もとより、以上はあくまで推論の域を出るものではないが、「横市地区では、居館跡と生産遺跡が発見されており、こうした居館と水田がセットとなった中世の荘園

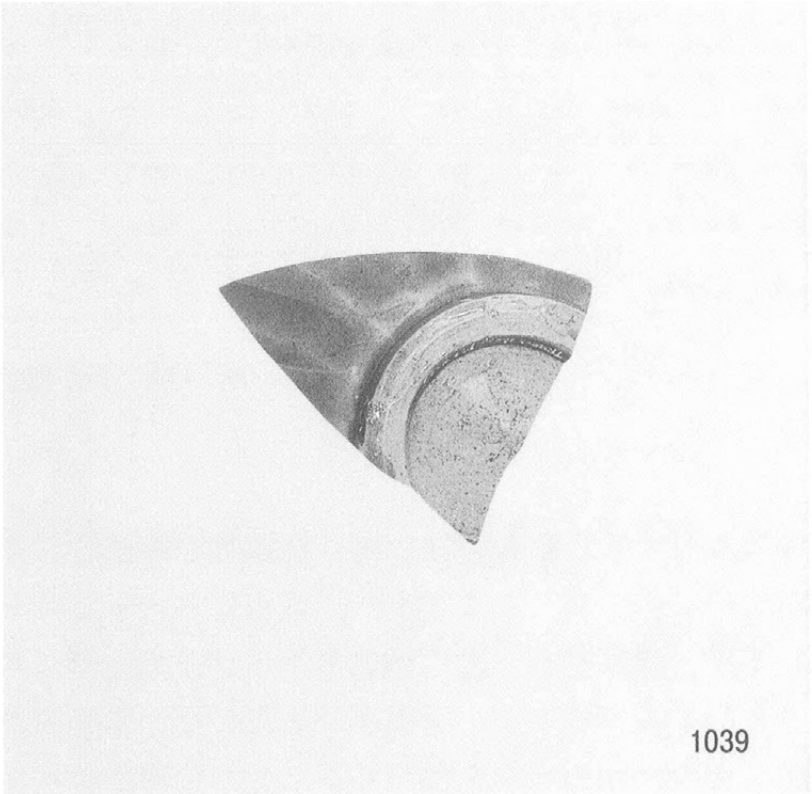
1021

1022

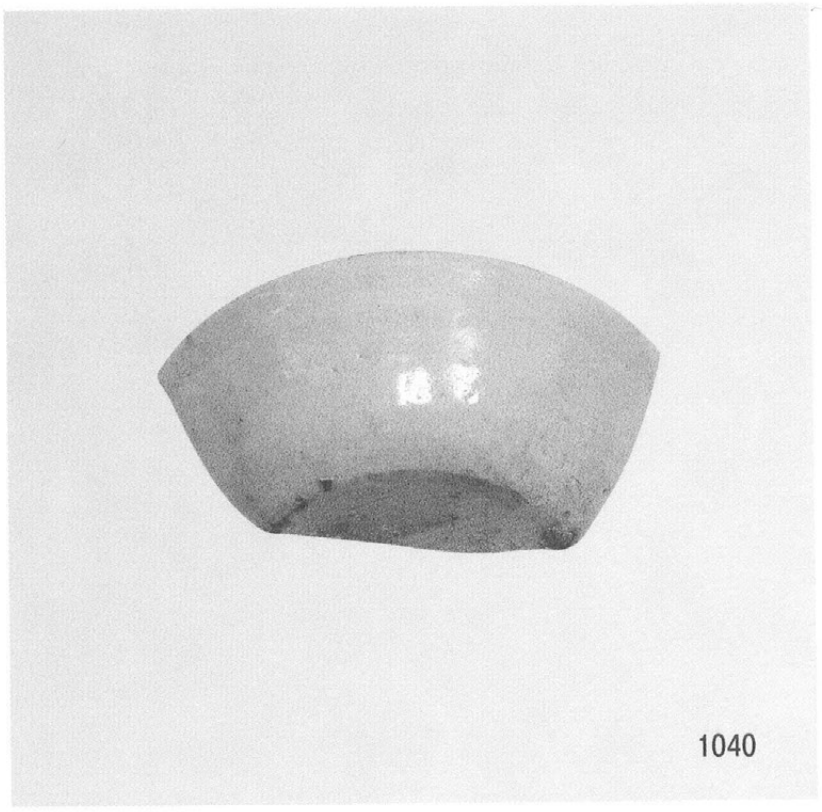
1023

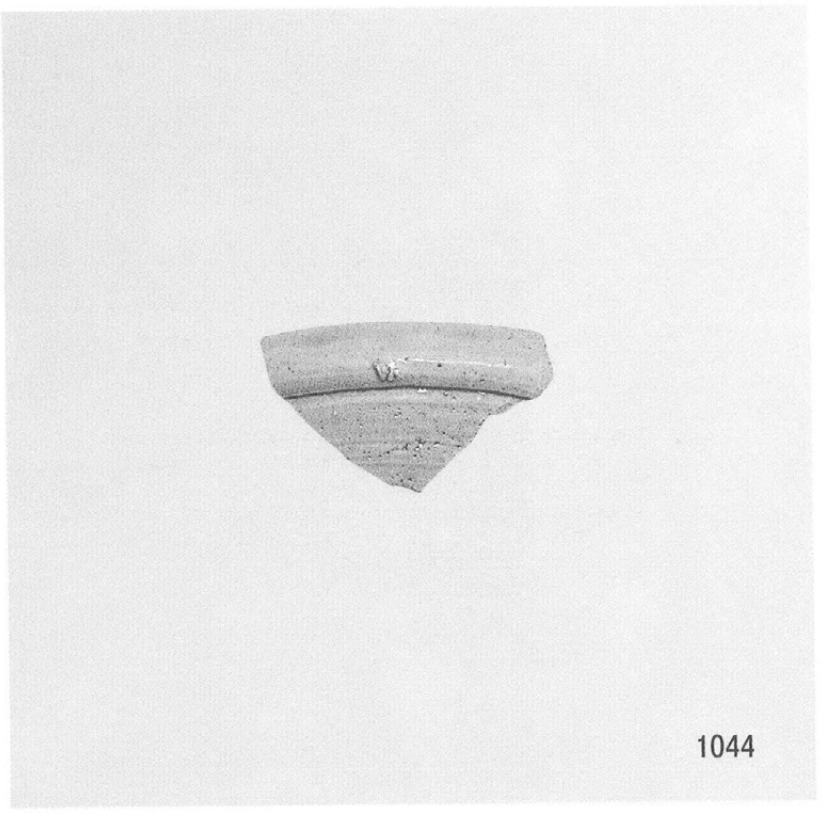

1025

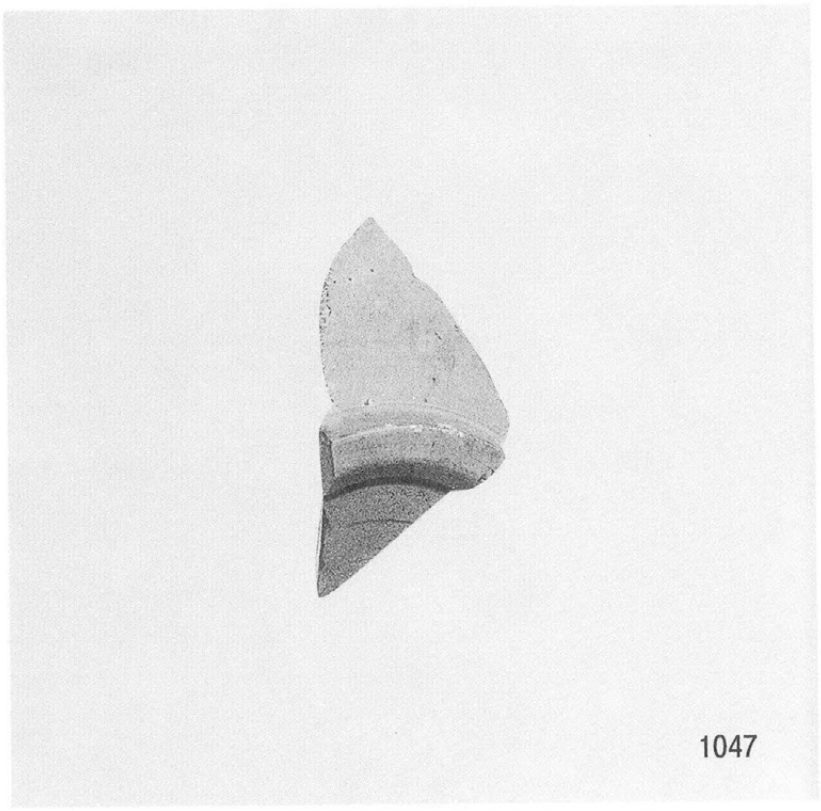
1029

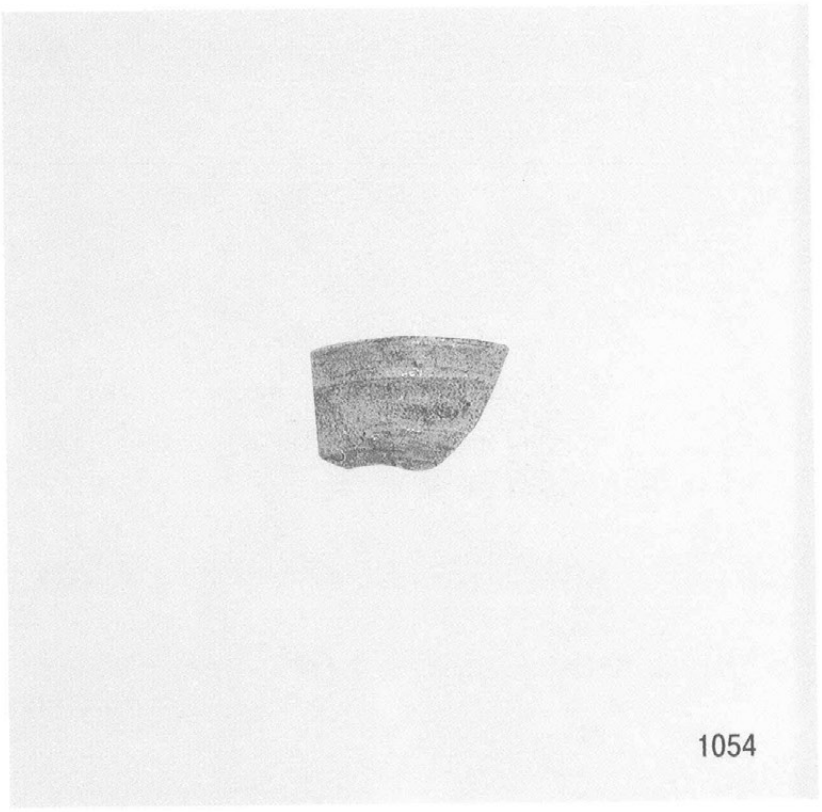

1039

図版90　Pit 内出土遺物写真　陶磁器(1)

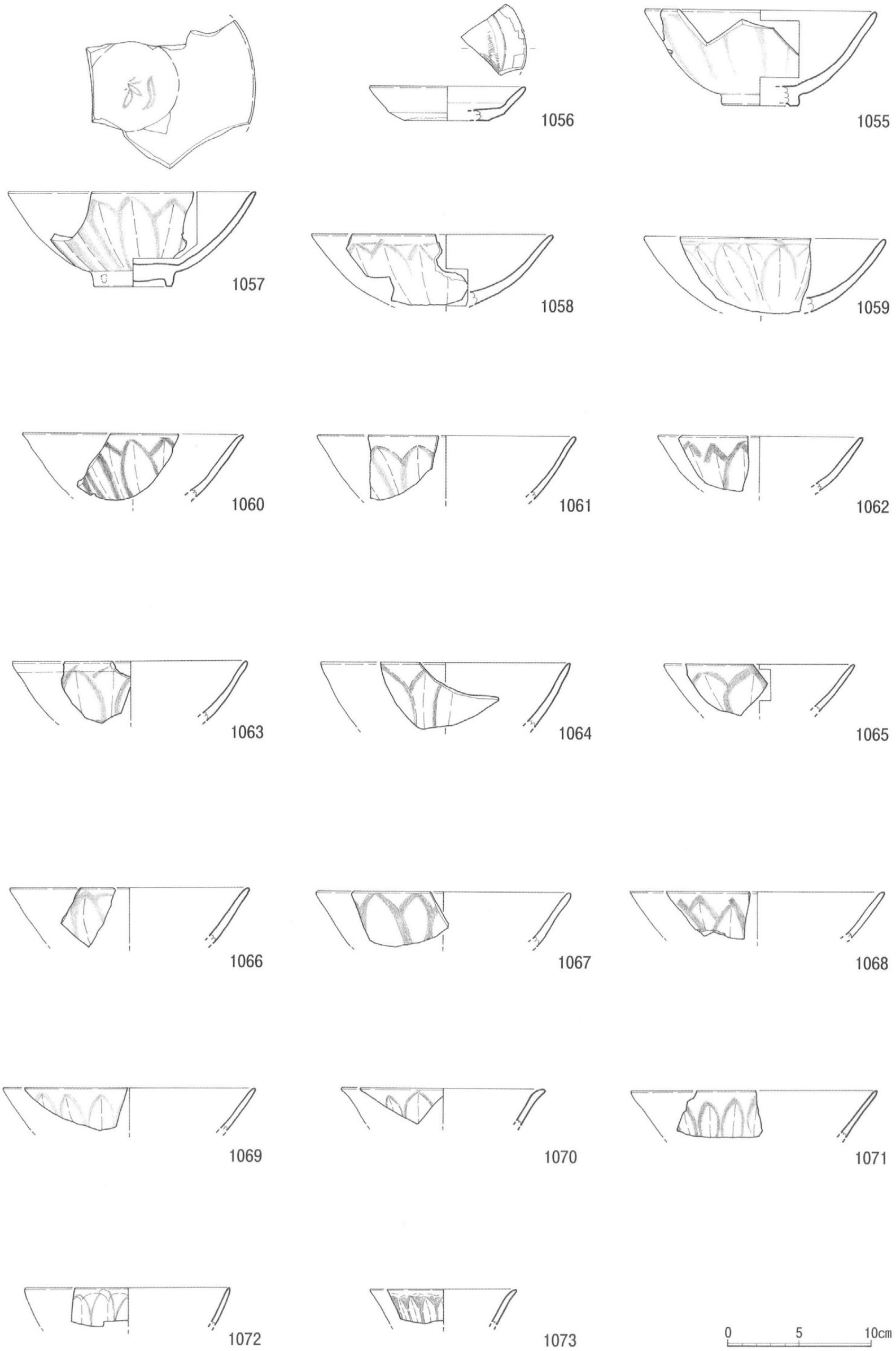




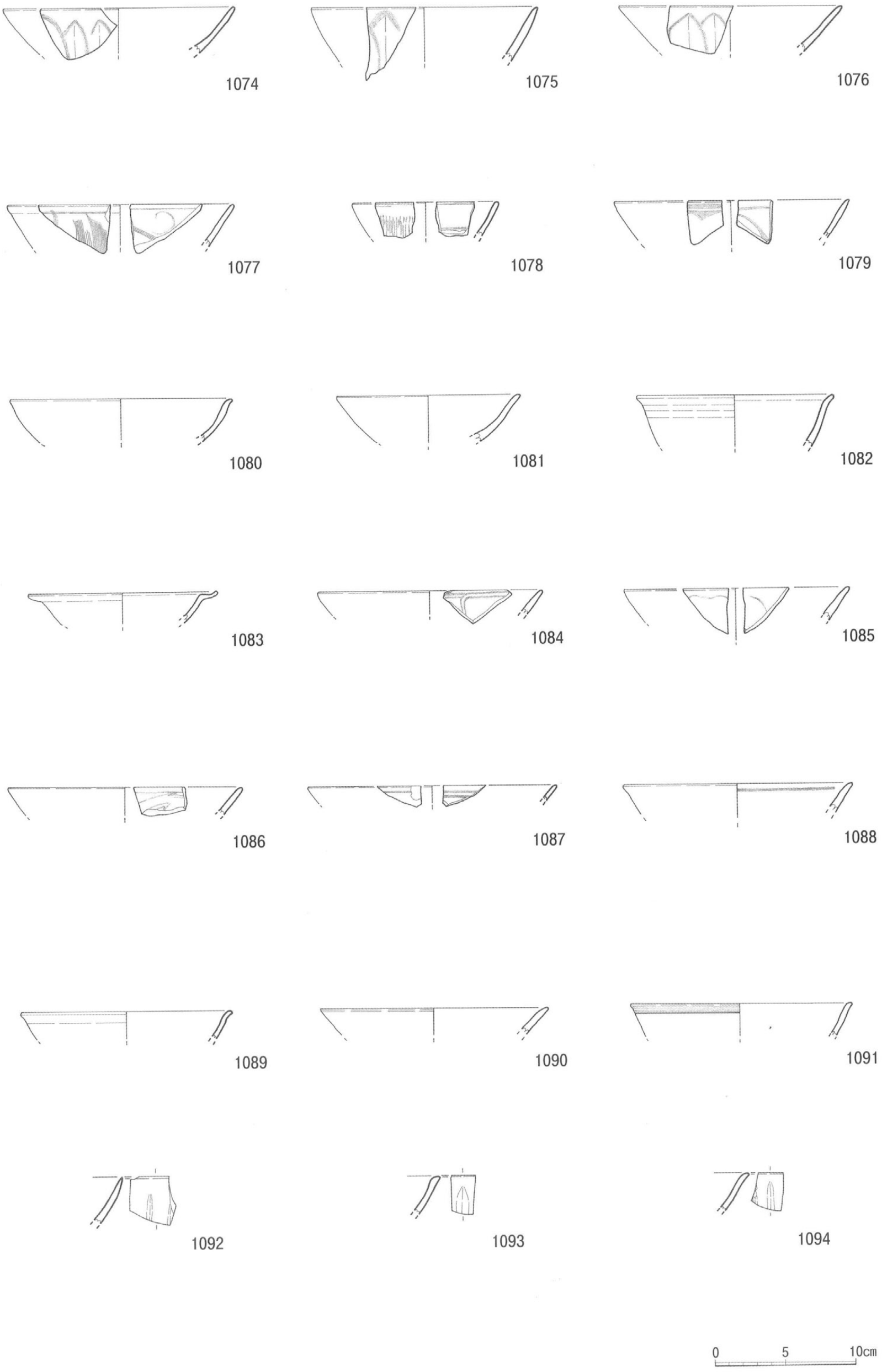




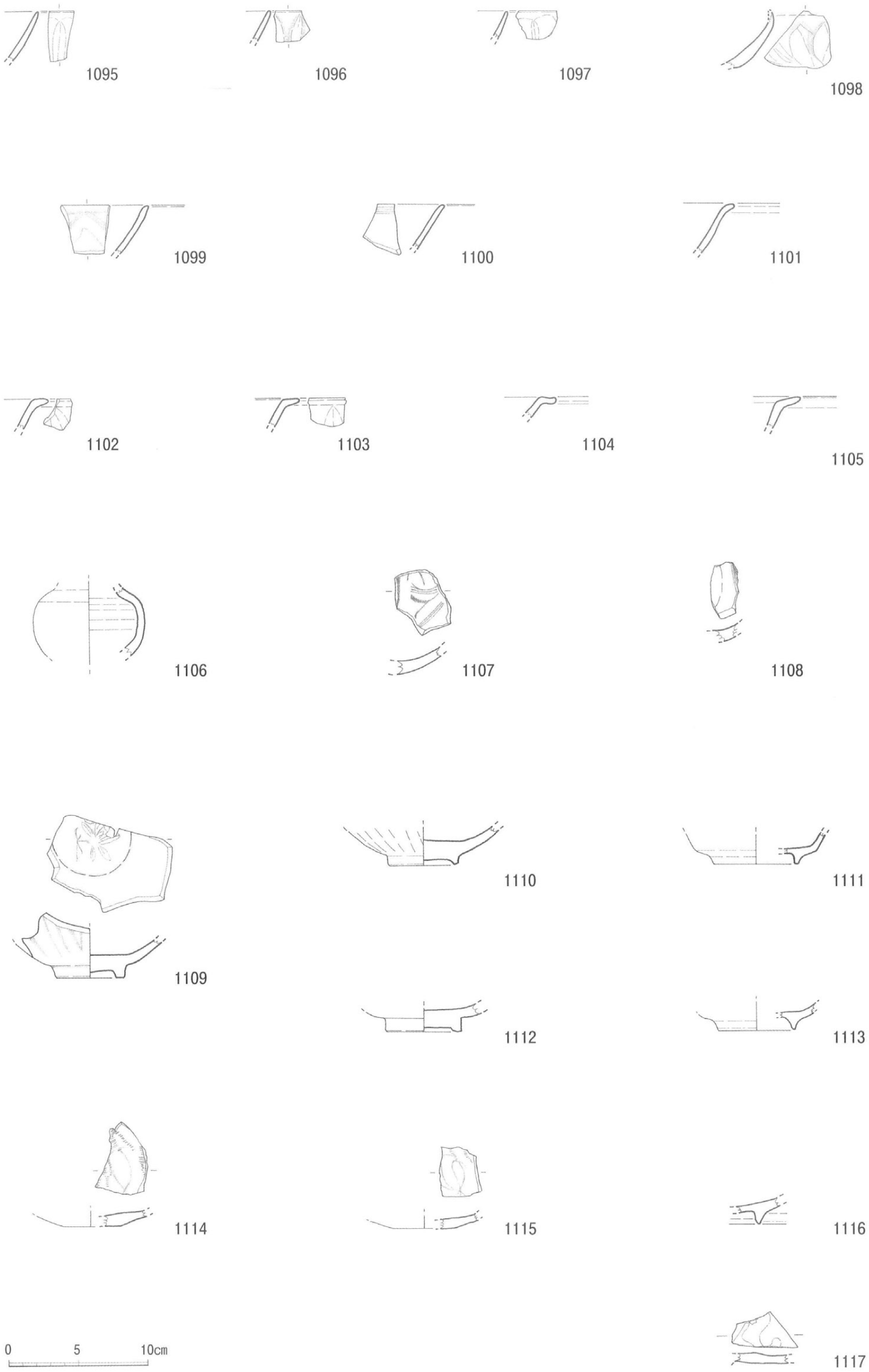
図版91　Pit 内出土遺物写真　陶磁器(2)



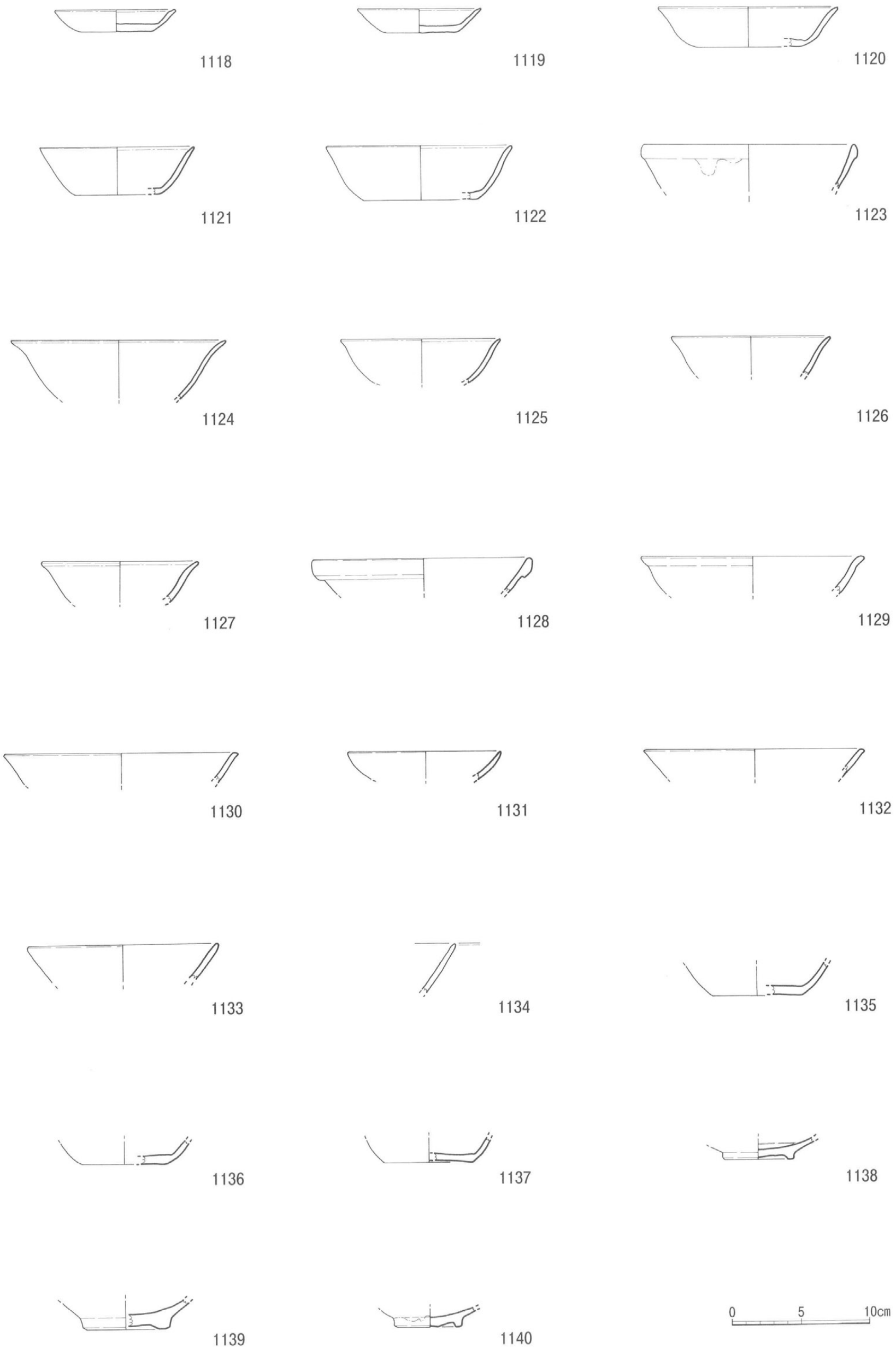
第126図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(1)



第127図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(2)

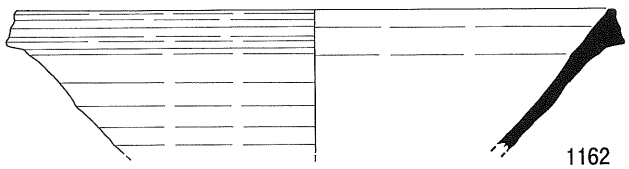


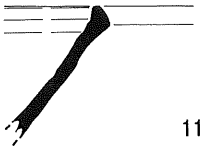
第128図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(3)

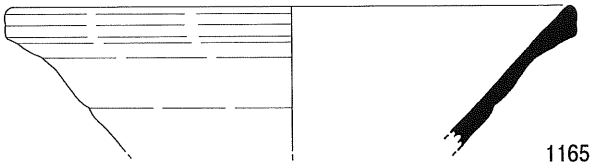


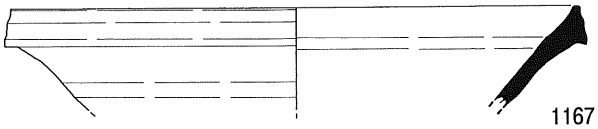
第129図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(4)

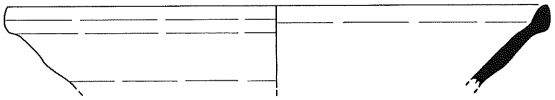
第130図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(5)

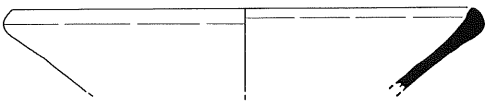


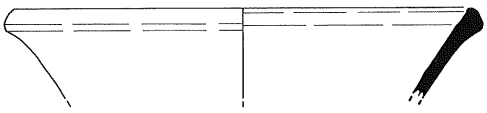


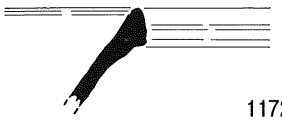


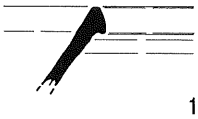


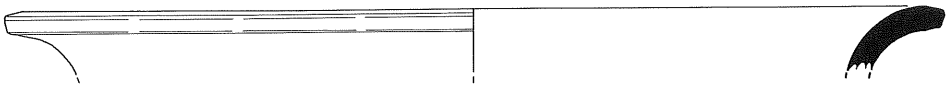


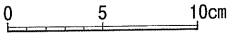




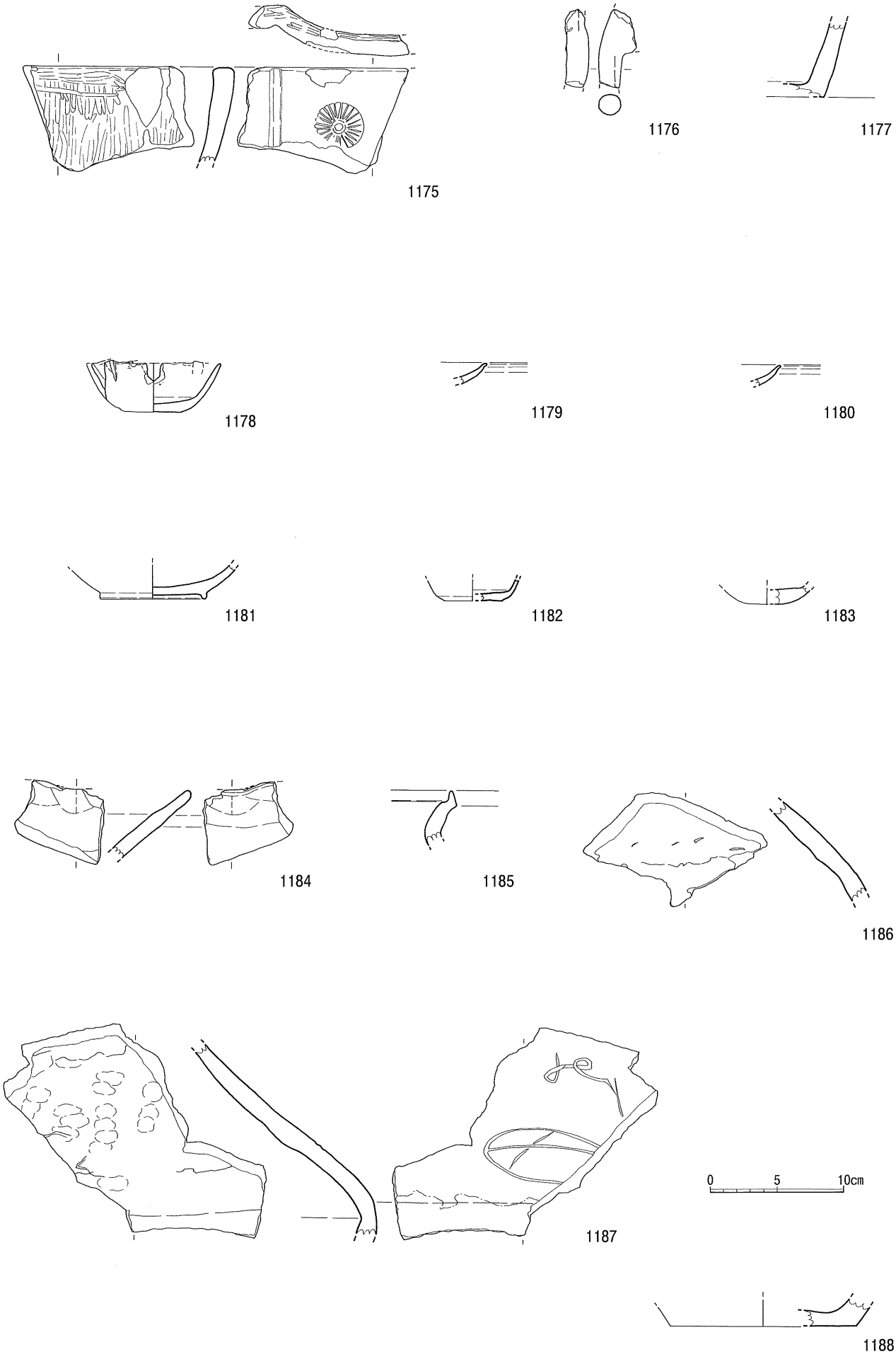




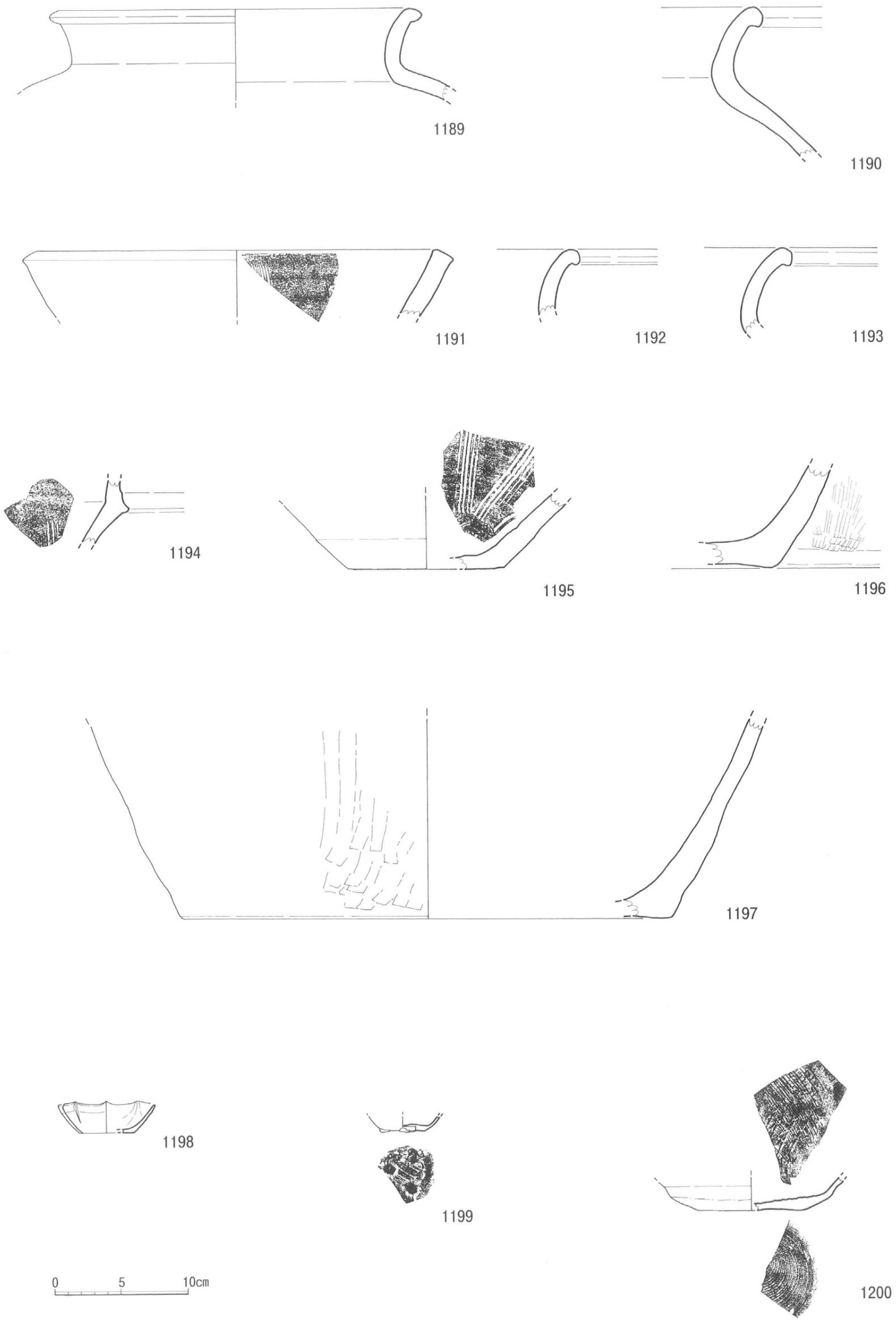




第131図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(6)



第132図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(7)



第133図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(8)

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
1055	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	5.5	6.7	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-c類
1056	青磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.0	-	-	(反転復元)　同安窯系ⅢI-1b類
1057	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.4	5.5	6.7	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-c類
1058	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.0	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1059	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.9	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1060	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1061	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	18.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1062	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.3	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1063	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1064	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.5	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1065	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1066	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1067	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.9	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-a類？
1068	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1069	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.6	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1070	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.3	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅲ-2c類
1071	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1072	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅲ-2C類
1073	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅲ-2c類
1074	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1075	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1076	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.0	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ-b類
1077	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.3	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-3類
1078	青磁	小碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.6	-	-	(反転復元)　同安窯系碗I-1b類
1079	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.9	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-2類
1080	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.0	-	-	(反転復元)　同安窯系碗Ⅱ類
1081	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-1類？
1082	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅳ類以降
1083	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.6	-	-	(反転復元)　同安窯系碗Ⅳ類？
1084	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-4類
1085	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-2類
1086	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-2 or 3類
1087	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.9	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-2 or 3類
1088	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I-1類
1089	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(反転復元)　同安窯系碗Ⅱ？
1090	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(反転復元)　龍泉窯系碗I類
1091	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.8	-	-	(反転復元)　同安窯系碗Ⅱ類
1092	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗Ⅲ-2C類
1093	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗Ⅲ-2c類
1094	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗Ⅲ-2c類
1095	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗Ⅲ類
1096	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗Ⅲ類？

第72表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(1)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1097	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅲ−2C類
1098	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系曲口碗Ⅱ−類
1099	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅲ−1B類
1100	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅰ−2〜4類
1101	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅳ類以降
1102	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ−4b類
1103	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ−3b類？
1104	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ−3 or 4類
1105	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ類
1106	青磁	小壺？	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	(反転復元)　龍泉窯系Ⅳ類以降
1107	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅰ−2類
1108	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系碗Ⅰ−2類？
1109	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	5.0	−	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ−c類
1110	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	5.0	−	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ−b類
1111	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	6.1	−	(反転復元)　龍泉窯系坏Ⅲ−1類
1112	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	5.4	−	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅰ類
1113	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	5.6	−	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅲ類
1114	青磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	4.0	−	(反転復元)　同安窯系ⅢⅠ−1b類
1115	青磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	4.4	−	(反転復元)　同安窯系ⅢⅠ−1b類
1116	青磁	坏	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系坏Ⅲ類？
1117	青磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	龍泉窯系盤Ⅲ or Ⅳ類
1118	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	8.9	5.3	1.6	(反転復元)　ⅢⅨ類
1119	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	9.0	5.0	2.8	(反転復元)　ⅢⅨ類
1120	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.0	7.2	2.9	(反転復元)　ⅢⅨ類
1121	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.3	6.0	3.4	(反転復元)　ⅢⅨ類
1122	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.6	8.4	3.9	(反転復元)　ⅢⅨ類
1123	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.2	−	−	(反転復元)　碗Ⅳ類
1124	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.6	−	−	(反転復元)　碗Ⅸ類
1125	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.7	−	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1126	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.6	−	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1127	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.5	−	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1128	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.8	−	−	(反転復元)　碗Ⅳ類
1129	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	−	−	(反転復元)　碗Ⅴ類
1130	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.0	−	−	(反転復元)　碗Ⅴ−4 or Ⅷ類
1131	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.2	−	−	(反転復元)　ⅢⅧ類
1132	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.1	−	−	(反転復元)　碗Ⅴ類
1133	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.8	−	−	(反転復元)　碗Ⅷ−2類
1134	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	−	−	碗Ⅷ or Ⅴ−2類
1135	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	6.4	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1136	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	6.0	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1137	白磁	Ⅲ	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.4	−	−	(反転復元)　ⅢⅨ類
1138	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	−	5.1	−	(反転復元)　碗Ⅸ−1類

第73表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(2)

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
1139	白磁	碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰白色	－	6.3	－	(反転復元)　碗Ⅳ類
1140	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	4.9	－	(反転復元)　碗Ⅸ類
1141	白磁	碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰白色	－	6.0	－	(反転復元)　碗Ⅷ類
1142	白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	5.7	－	(反転復元)　皿Ⅸ類
1143	白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	6.0	－	(反転復元)　皿Ⅸ類
1144	白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	3.2	－	(反転復元)　皿Ⅵ類？
1145	白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	皿Ⅷ類
1146	青白磁	合子	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.4	－	－	(反転復元)
1147	青白磁	合子	包含層	施釉	一部施釉	灰白色	6.6	－	－	(反転復元)
1148	青白磁	合子	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.6	－	－	(反転復元)
1149	青白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.0	－	－	(反転復元)
1150	青白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.6	－	－	(反転復元)
1151	青白磁	皿	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.4	－	－	(反転復元)
1152	青白磁	梅瓶	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	
1153	青白磁	梅瓶	包含層	施釉	回転ナデ	灰白色	－	－	－	
1154	青白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	
1155	青白磁	梅瓶	包含層	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	
1156	中国陶器	天目茶碗	包含層	施釉	施釉	灰黄色	－	－	－	
1157	中国陶器	盤	包含層	施釉	施釉	灰黄色	－	－	－	盤Ⅰ-2類
1158	中国陶器	天目茶碗	包含層	施釉	施釉	灰黄色	－	－	－	
1159	中国陶器	壺	包含層	施釉	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
1160	中国陶器	盤	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	－	－	盤Ⅰ-2類(鉄絵)
1161	中国陶器	盤	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	－	－	盤Ⅰ-2類
1162	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	32.0	－	－	(反転復元)
1163	東播系須恵器	坏	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	8.0	－	－	(反転復元)
1164	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
1165	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	30.4	－	－	(反転復元)
1166	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	26.4	－	－	(反転復元)
1167	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	30.0	－	－	(反転復元)
1168	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	28.8	－	－	(反転復元)
1169	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	24.4	－	－	(反転復元)
1170	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	25.3	－	－	(反転復元)
1171	東播系須恵器	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	32.0	－	－	(反転復元)
1172	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
1173	東播系須恵器	鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
1174	東播系須恵器	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	49.6	－	－	(反転復元)
1175	瓦質土器	火鉢	包含層	回転ナデ	ミガキ	黄灰色	－	－	－	内面の一部欠損
1176	瓦質土器	土鍋	包含層	縦方向のナデ	縦方向のナデ	灰黄色	－	－	－	(畿内系)
1177	瓦質土器	火鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	－	－	－	
1178	灰釉陶器	入子	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	10.0	4.4	3.9	(反転復元)　内･外面の一部にスス付着
1179	灰釉陶器	平碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	－	－	
1180	灰釉陶器	平碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	－	－	

第74表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(3)

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
1181	灰釉陶器	碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	7.9	－	内面に赤色顔料付着
1182	灰釉陶器	入子	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	－	4.4	－	(反転復元)　前Ⅲ～中Ⅱ期
1183	灰釉陶器	小碗か入子	包含層	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	－	2.6	－	(反転復元)
1184	常滑	片口鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	赤褐色	－	－	－	注口部
1185	常滑	壺	包含層	自然釉	自然釉	灰黄色	－	－	－	
1186	常滑	壺	包含層	自然釉	横方向のナデ	明赤褐色	－	－	－	
1187	常滑	甕	包含層	自然釉	横方向のナデ	赤褐色	－	－	－	
1188	常滑	壺	包含層	横方向のナデ	自然釉	暗褐灰色	－	14.0	－	(反転復元)
1189	備前	壺	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	28.0	－	－	(反転復元)　Ⅱ期
1190	備前	大甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	Ⅱ期
1191	備前	擂鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	32.2	－	－	(反転復元)　Ⅲ期
1192	備前	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	Ⅱ期
1193	備前	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	Ⅱ期
1194	備前	擂鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色	－	－	－	
1195	備前	擂鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色	－	11.6	－	(反転復元)
1196	備前	甕か壺	包含層	縦方向のナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
1197	備前	甕か壺	包含層	縦方向のナデ	回転ナデ	褐灰色	－	36.6	－	(反転復元)
1198	国産陶器	入子	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	7.3	4.0	2.3	(反転復元)
1199	国産陶器	小碗	包含層	回転ナデ	自然釉	褐灰色	－	3.4	－	(反転復元)
1200	国産陶器	おろし皿	包含層	施釉	施釉	浅黄橙色	－	8.0	－	(反転復元)

第75表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(4)

1057

1083

図版92　包含層内出土遺物写真　陶磁器(1)

1114

1143

1146

1149

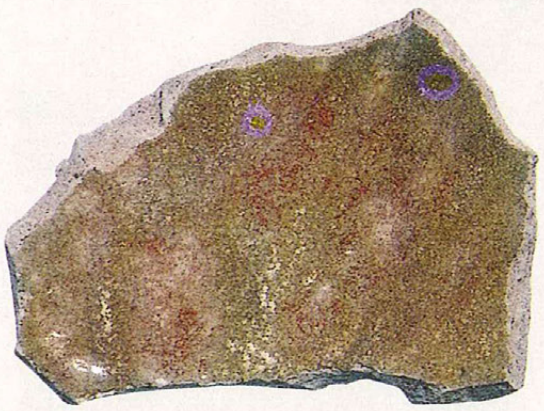
1156

1162

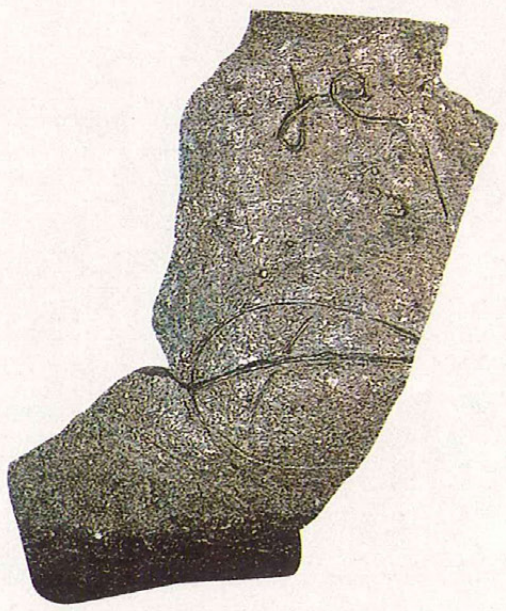
図版93　包含層内出土遺物写真　陶磁器(2)

1176

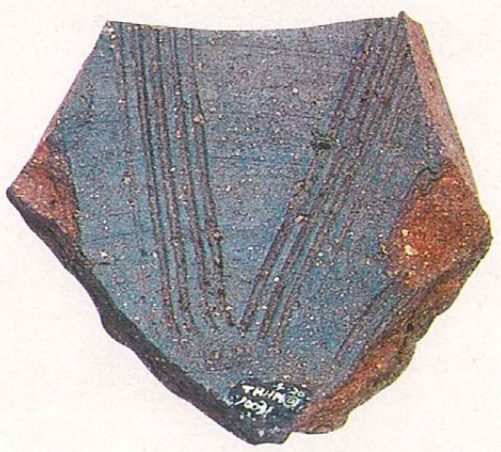
1178



1181



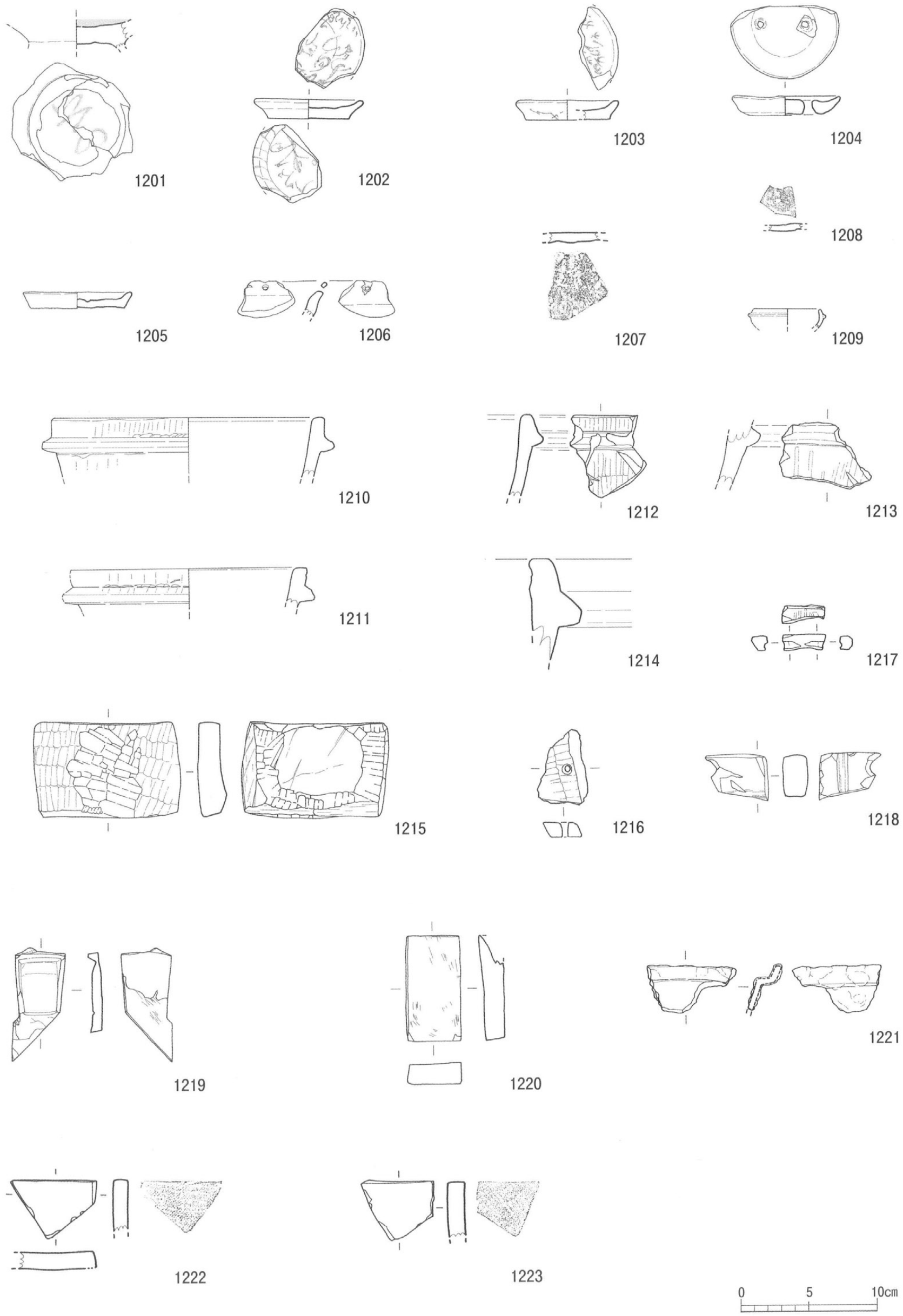
1187



1195

1199

図版94　包含層内出土遺物写真　陶磁器(3)



第134図　包含層内出土遺物実測図　墨書土器・石製品・鉄製品・瓦

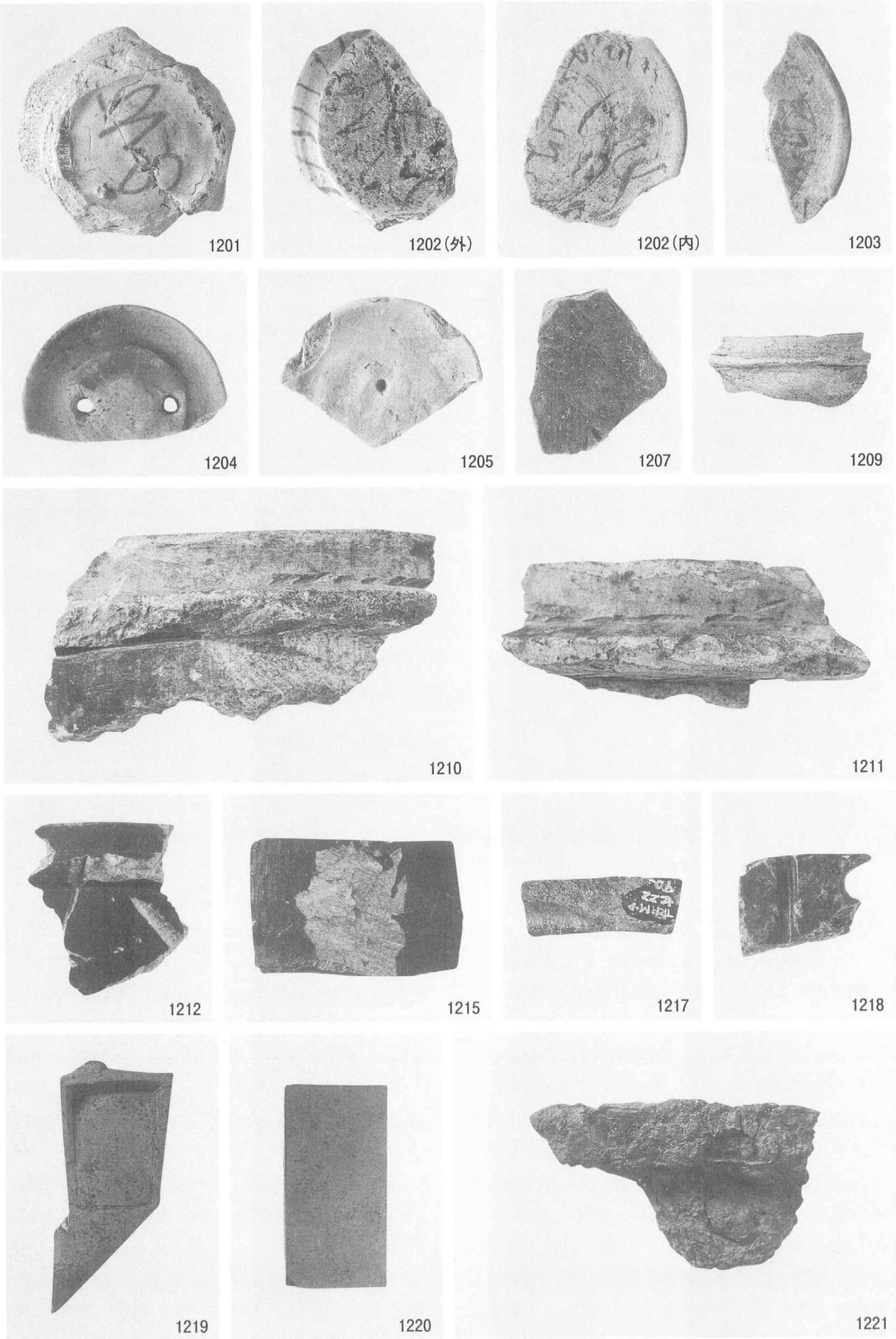
掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1201	黒色土器	高台付椀	包含層	−	ミガキ	黒(N1.5/)	浅黄橙(7.5YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	−	−	−	墨書
1202	土師器	小皿	包含層	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.0	1.4	回転糸切　内外墨書
1203	土師器	小皿	包含層	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.3	1.4	回転糸切　内外墨書
1204	土師器	小皿	包含層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	5.6	1.5	回転糸切　内指頭痕　底部穿孔2
1205	土師器	小皿	包含層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.0	6.8	1.2	回転糸切　板状圧痕　底部穿孔
1206	土師器	−	包含層	−	−	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	−	−	−	穿孔
1207	土器	−	包含層	−	−	黄灰(2.5YR4/1)	黄灰(2.5YR6/1)	2mm以下の鉱物・砂粒	−	−	−	籾痕　植物繊維痕
1208	土師器	坏	包含層	−	−	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	ごく微小の鉱物・砂粒	−	−	−	回転ヘラ切　内底スタンプ痕
1209	土師器	ミニチュア土器	包含層	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	5.0	−	−	羽釜
1210	滑石製品	石鍋	包含層	−	−	−	−	−	20.1	−	−	反転復元
1211	滑石製品	石鍋	包含層	−	−	−	−	−	17.4	−	−	反転復元
1212	滑石製品	石鍋	包含層	−	−	−	−	−	−	−	−	破片
1213	滑石製品	石鍋	包含層	−	−	−	−	−	−	−	−	破片
1214	滑石製品	石鍋	包含層	−	−	−	−	−	−	−	−	破片
1215	滑石製品	−	包含層	−	−	−	−	−	10.7	7.1	1.9	315g　石鍋底部付近　加工痕
1216	滑石製品	−	包含層	−	−	−	−	−	5.4	3.7	1.1	33g　石鍋転用　穿孔
1217	滑石製品	−	包含層	−	−	−	−	−	3.1	1.2	1.2	6.7g　石鍋転用　穿孔
1218	滑石製品	−	包含層	−	−	−	−	−	4.5	3.5	1.7	46.9g　石鍋転用　穿孔　擦痕
1219	石製品	硯	包含層	−	−	−	−	−	8.5	3.3	0.8	32.1g　砥石転用　擦痕
1220	石製品	砥石	包含層	−	−	−	−	−	7.6	4.0	1.5	88.2g
1221	鉄製品	鍋	包含層	−	−	−	−	−	6.4	3.4	0.4	24.7g　破片
1222	瓦	平瓦	包含層	−	布目	灰白(5Y4/1)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	−	−	−	薄く鉄分付着
1223	瓦	平瓦	包含層	−	布目	灰白(10YR8/1)	灰白(10YR8/1)	2mm以下の鉱物・砂粒	−	−	−	薄く鉄分付着

第76表　包含層内出土遺物観察表　土師器・石製品・鉄製品・瓦

の様相を示すモデルの例」（都城市2005）として重要な評価を得ており、該地の状況を明らかにするためには、今後大局的見地からの検討を行っていく必要もあろう。

全国的にも最大級とされた島津荘は、大宰府の大監：平季基によって原型がつくられ、万寿年間（1024～28）に藤原頼通に寄進されたのが出発点とされる。以後摂関家の権威を背景にした大宰府のバックアップを受けながら成立し、拡大した。鎌倉期には、島津忠久が源頼朝より下司職補任され領知した。その後は北条得宗領となり、重時流赤橋氏（守護）の長期支配が行われた。14世紀以後は本荘の有力荘官であった日向日置氏の勢力下におかれたとみられ、この一族の動向が南北朝の動乱・荘園公領制の崩壊への加速という歴史的背景を如実に示している。こうした荘官等によって行われた開発は、扇状地の湧水池周辺（古代以前より）や大淀川・沖水川・庄内川などの低地（氾濫原）から扇状地・段丘面へと進み、居館をその後背地である河岸段丘・扇状地の崖などに営むようになっていく（宮崎県1998）。『宮崎県史』は以上のように概括しているが、島津荘の歴史的解明や、該期における村落のあり方など、いまだ課題は山積されているといえよう。横市地区遺跡群はこうした歴史的背景を検証できるだけの資料を提供してきている。鶴喰遺跡と対岸の加治屋遺跡、新宮城と母智丘谷遺跡などが散在するこの一帯は、下財部院の一拠点として、また「財部路」の陸運、横市川の水運をおさえる集積地もしくは交通の拠点として存在していたということも考えられる。今後の報告によって調査データのさらなる蓄積がはかられることと思うが、それに伴って都城盆地の歴史的様相の解明がさらに進展することを期待するものである。

（米澤）



図版95　包含層内出土遺物写真　墨書土器・石製品・鉄製品

図版96　姫城中体験発掘

平成９年11月７日　SD22・23を発掘

【引用・参考文献】

- 朝日新聞社・上海博物館　1966『青花磁器展』
- 国立歴史民俗博物館　2005『東アジア中世海道－海商・港・沈没船－』
- 佐久間貴士　1994「発掘された中世の村と町」(『岩波講座　日本通史　第９巻　中世３』岩波書店)
- 高橋修　2002「中世前期の在地領主と『町場』」(『歴史学研究』増刊号)
- 「太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年〔2000.２補訂〕」(太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ』)
- 都城市　2001『都城市史　史料編　古代・中世』
- 都城市　2003『都城市史　史料編　近世３』
- 都城市　2005『都城市史　通史編　中世・近世』
- 都城市教育委員会　2004『鶴喰遺跡（古墳時代編)』都城市文化財調査報告書第61集
- 宮崎県　1998『宮崎県史　通史編　中世』

フリガナ	ツルハミイセキ（チュウセイヘン）
書名	鶴喰遺跡（中世編）
副書名	県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第79集
編著者名	近沢恒典・下田代清海・米澤英昭
発行機関	都城市教育委員会
所在地	宮崎県都城市姫城町６街区21号
発行年月日	平成19年（2007）３月22日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鶴喰遺跡（ツルハミイセキ）	都城市（みやこのじょうし）横市町（よこいちちょう）字表（あざおもて）	31°44′40″付近	131°1′20″付近	1996.10.1～1997.11.30	8,100㎡	県営ほ場整備事業

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世建物群	中世	掘立柱建物 石組遺構 土坑 溝状遺構	土師器 中国産磁器 国産陶器 鉄製品	拠点的機能を有する14世紀初頭の建物群

都城市文化財調査報告書　第79集

鶴喰遺跡（中世編）

平成19年（2007）３月22日

編集・発行　宮崎県都城市教育委員会
〒885-8555
宮崎県都城市姫城町６街区21号
TEL0986-23-9547 FAX0986-24-1989

印　　刷　株式会社みやこ印刷
〒885-0026
宮崎県都城市大王町51-22
TEL 0986-23-1682 FAX0986-22-1682

第11図　B・D地区遺構配置図